Genius ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY 5th Edition

G５の発音表記の特色
―新しい英音表記と「聞こえ方」の注記

南條　健助

私は，改訂版（1993）以来，20年以上にわたって『ジーニアス英和辞典』の発音表記を担当してきました。その間，一貫して「日常会話でしばしば耳にするくだけた発音も含め，今日英米で実際に使用されている最新かつ一般的な発音を正確に表記する」という方針を採ってきました。発音表記は，第４版（2006）において初版（1987）以来最大の改訂を行いましたので，今回の改訂は比較的小規模なものとなりましたが，第５版（G５）の新機軸として，

⑴ 日本の英和辞典として初めて英音の/ɒ/という発音記号を採用した。

⑵ 他書ではほとんど触れられていない日本人学習者がリスニングで苦手とする母音の変化を「聞こえ方」の注記として盛り込んだ。

という２点を挙げることができます。もう少し詳しくご紹介します。

◆英音の/ɒ/の記号を採用

従来，日本の英和辞典は，law や talk の母音には/ɔ:/の記号を，lot や dog の英音の母音には/ɔ/の記号を使用してきました。しかし，このような表記は，あたかも２つの母音の音質は同一であり，両者は長短の差によってのみ区別されるという誤解を与える可能性が高く，音声学者の間では以前から問題視されてきました。一方，英国では1960年代から lot や dog の母音に/ɒ/の記号が使用され始め，law や talk の/ɔ:/とは，長短だけではなく，音質も違うことが明示されるようになりました。今や/ɒ/の記号は，英音の発音表記における事実上の世界標準となっています。G５は，日本の英和辞典として初めて/ɒ/の記号を採用し，これによって英国で出版されている全ての学習英英辞典とほぼ同一の発音表記体系となりました（bird や work の/ɜ:/の記号［G５では/ə:/］を除く）。

このほか，この８年の間に急激に変化した英音の実態を反映して，「発音記号表への注」を改訂し，すでに今日の英国で主流となっている最新の発音を表記しました。

◆「聞こえ方」の注記の導入

日本人学習者がリスニングで苦手とする母音の変化として，特に米音において，/l/の前にある/ʌ/が，しばしば「オ」に近い響きになる現象があります。実際，教室でリスニングの指導をしていると，result を resort と聞き間違えたり，Gulf War を Golf War と聞き間違えたりする学習者が目立ちます。また，dull が［ドウ］のように聞こえて，聞き取れない学習者が多数います。

この現象は日本人学習者の弱点の一つですが，英語の発音やリスニングの教材では，これまでほとんど取り上げられてきませんでした。そこで，G５では，使用頻度の高い重要語を中心に，

dull《◆特に《米》ではしばしば/dʌ́l/のように聞こえる》

のような「聞こえ方」の注記を随所に入れました。リスニングの指導に役立てていただければ幸いです。

（なんじょう　けんすけ・桃山学院大学国際教養学部准教授）